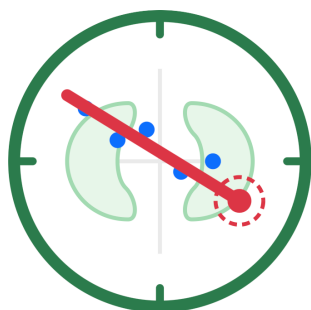




eGFR NAVI

Windowsサーバー版 導入手順書

バージョン 1.0.6

愛媛腎健プロジェクト
Ehime Renal Health Project



目次

1. この手順書について	3
2. 導入前の確認	4
3. ZIPファイルの展開	5
4. サーバーの常駐化（自動起動）	8
5. 動作確認と初回ログイン	11
6. パスワードの設定	13
7. 他のPCから使えるようにする	15
8. 日常の運用（停止・更新・バックアップ）	17
9. 困ったときは	19

1～6章までで導入は完了します。7章以降は、他のPCから使えるようにする設定と、導入後の運用（停止・更新・バックアップ）、トラブル時の対処です。必要になったときにお読みください。
Mac・Linuxをサーバーにする場合や、より詳しい技術的な情報は **SERVER.md** をご参照ください。

1. この手順書について

eGFR NAVI の**サーバー版**は、院内の1台のWindows PCで動かし、他のPCからはブラウザで利用する形態です。各PCへのインストールが不要になり、データも1か所にまとまります。

本書は、その**サーバーとなるPCでの導入作業**を説明します。利用者向けの操作方法は、別冊の「**eGFR NAVI 操作説明書**」をご覧ください。

この手順でできること

項目	内容
対象読者	院内でPCの設定を担当される方（プログラミングの知識は不要です）
所要時間	およそ15分
インターネット	不要 。必要なものはすべてZIPに同梱されています
作業内容	ZIPの展開 → 常駐化 → 動作確認 → パスワード設定

コマンド操作は必要ありません。ZIPの展開はWindows標準の「すべて展開」で行い、常駐化はバッチファイルを右クリックして実行するだけです。

用意するもの

- ・サーバーにするWindows PC（**常時電源が入っているもの**を選んでください）
- ・そのPCの**管理者権限**（常駐化の登録に必要です）
- ・配布ファイル egfr-navi-server-offline-win-x64-1.0.6.zip

2. 導入前の確認

作業を始める前に、次の3点をご確認ください。

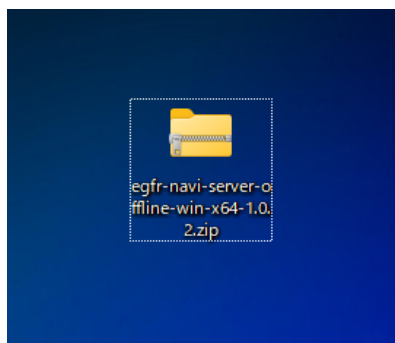
確認する項目	内容
管理者権限	作業するWindowsアカウントが管理者であること
ポート3000	他のソフトが使っていないこと（通常は空いています）
ファイアウォール	他のPCから使う場合は、受信のTCP 3000番を許可します

サーバーPC自身での動作確認だけであれば、ファイアウォールの設定は不要です。他のPCから接続する段階で必要になります。

患者データを扱うPCです。院内LANの中だけで使うことを前提としています。インターネットへ直接公開しないでください。導入にあたっては、各施設の医療情報セキュリティ方針に従ってください。

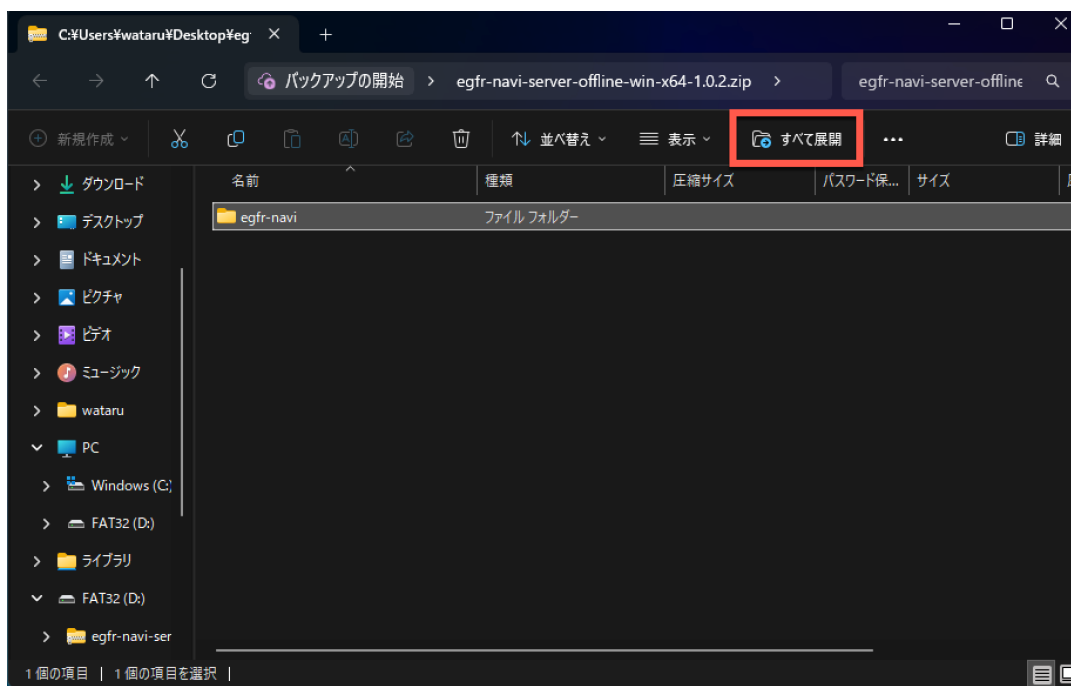
3. ZIPファイルの展開

配布されたZIPファイルを、**Cドライブの直下**に展開します。展開先を間違えると、後の手順でファイルが見つからなくなります。



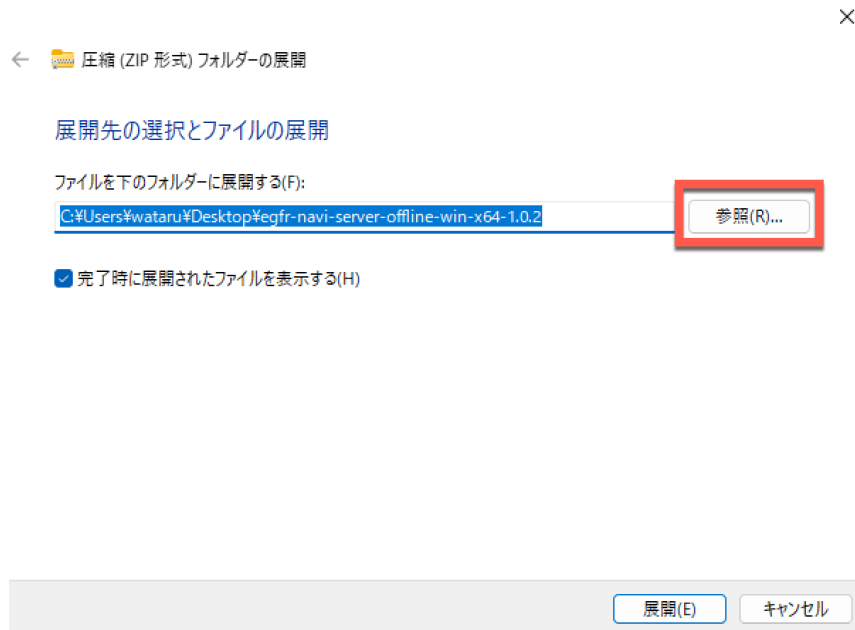
配布されたZIPファイル

1. ZIPファイルを**ダブルクリック**で開きます
2. 上部の「**すべて展開**」をクリックします



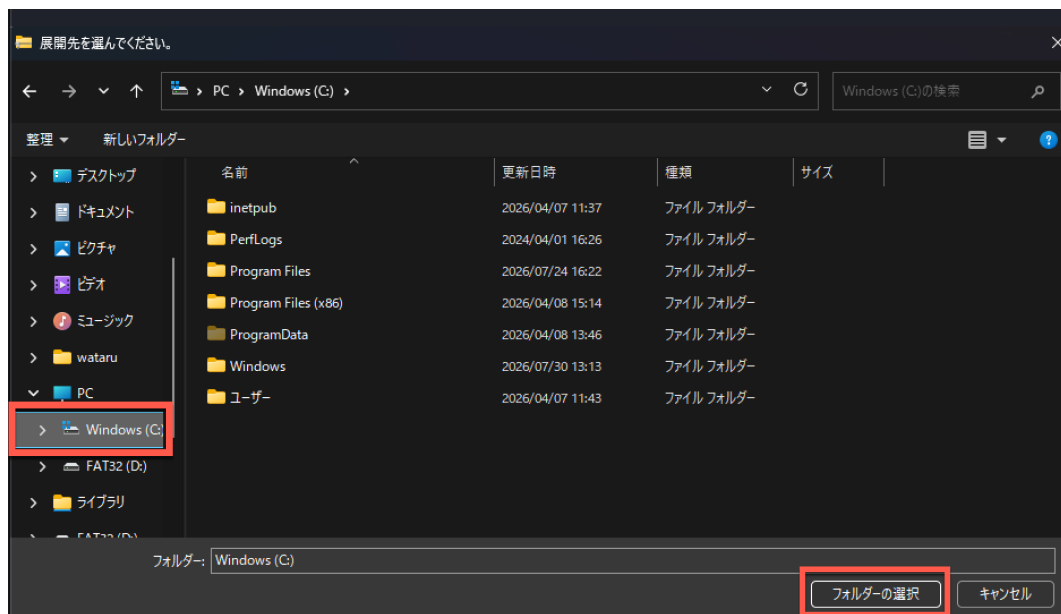
「すべて展開」をクリック

3. 「参照」をクリックします



展開先を選ぶため「参照」をクリック

4. 左側の一覧から PC → Windows (C:) を選び、「フォルダーの選択」をクリックします



Windows (C:) を選び「フォルダーの選択」

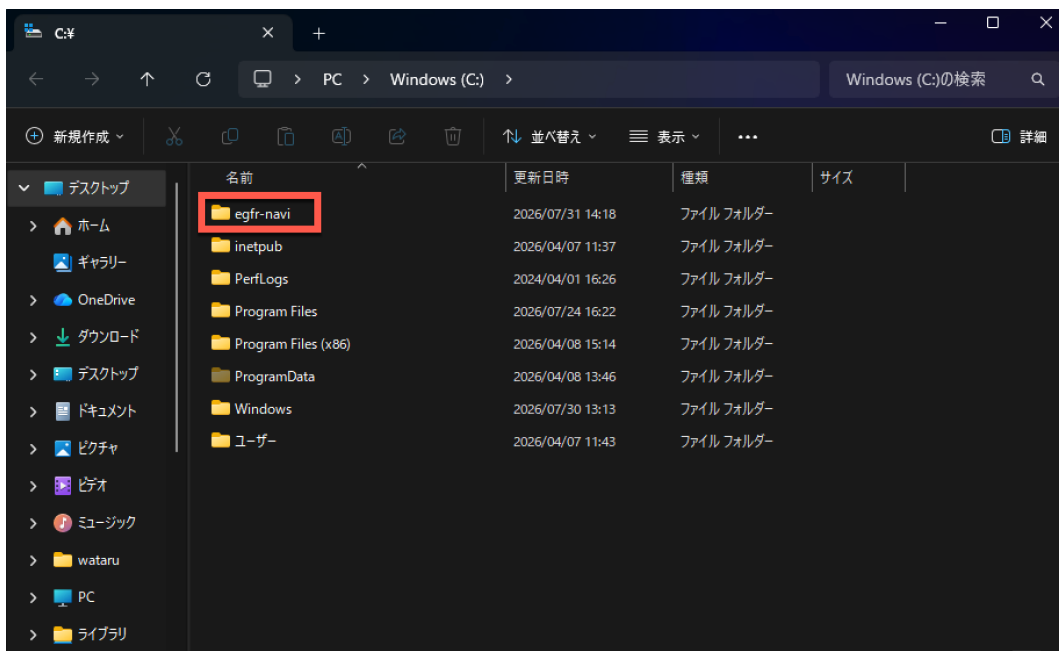
5. 展開先が C:\ になっていることを確認し、「展開」をクリックします



展開先が C:\ になっていることを確認してから「展開」

ここが最も間違えやすい箇所です。入力欄が C:\Users\...\Desktop\egfr-navi-server-offline-win-x64-1.0.6 のままだと、デスクトップに展開されてしまいます。必ず C:\ だけにしてください。

6. 展開が終わると、C:\egfr-navi フォルダができます



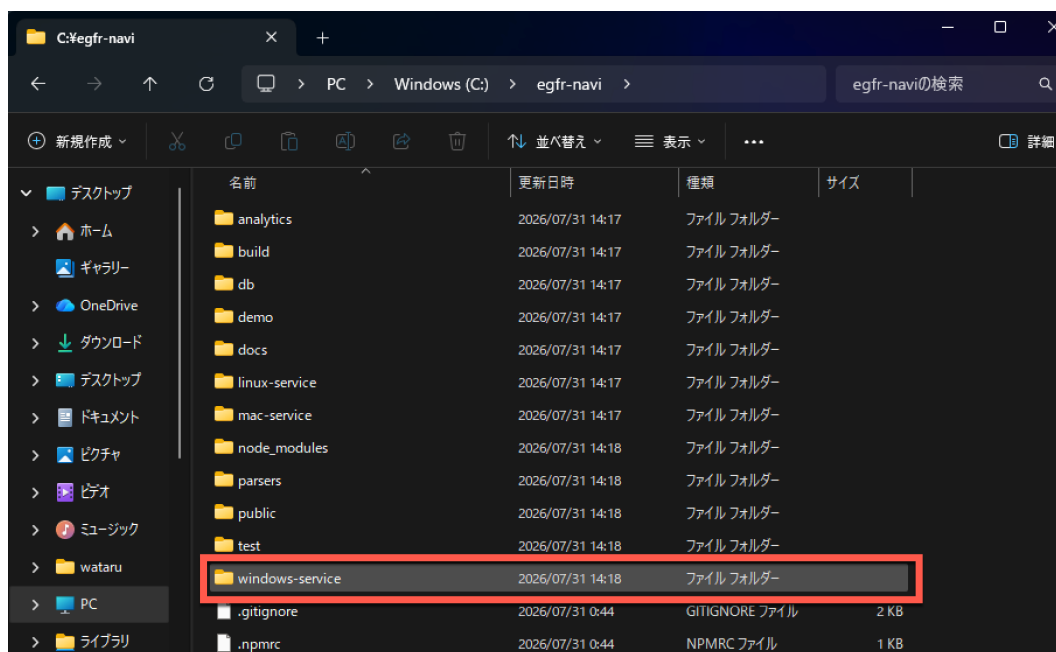
C:\egfr-navi ができていれば成功

フォルダの中に docs・demo・windows-service・node_modules などが並んでいれば正常です。もし C:\egfr-navi-server-offline-win-x64-1.0.6\egfr-navi のように二重になっている場合は、内側の egfr-navi フォルダごと C:\ へ移動し、外側の空フォルダを削除してください。

4. サーバーの常駐化（自動起動）

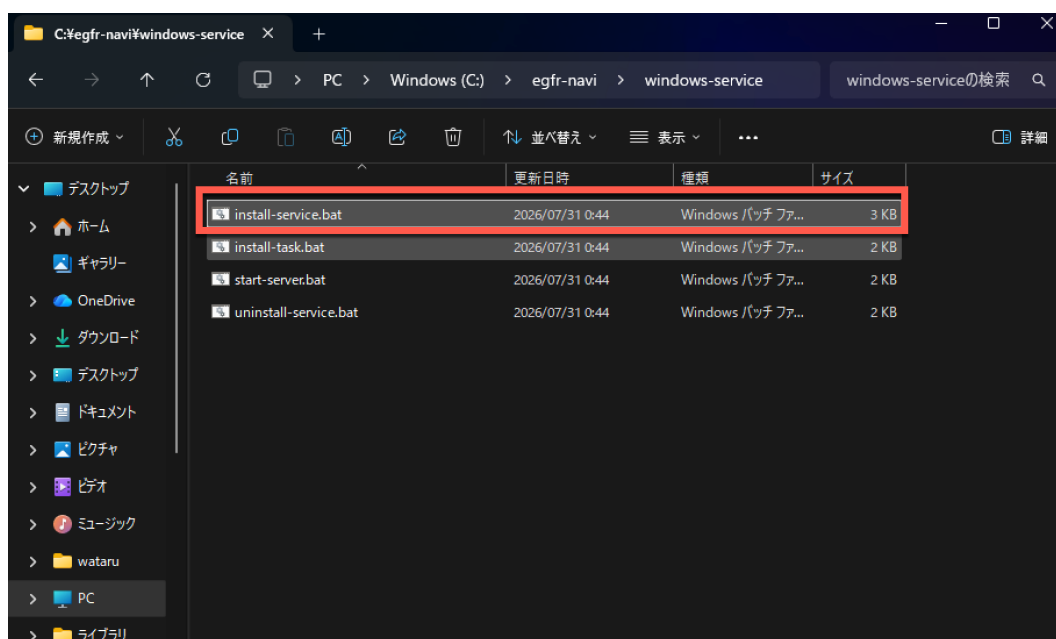
PCの電源を入れると自動的にサーバーが立ち上がるよう、Windowsに登録します。

1. C:\egfr-navi の中の **windows-service** フォルダを開きます



windows-service フォルダを開く

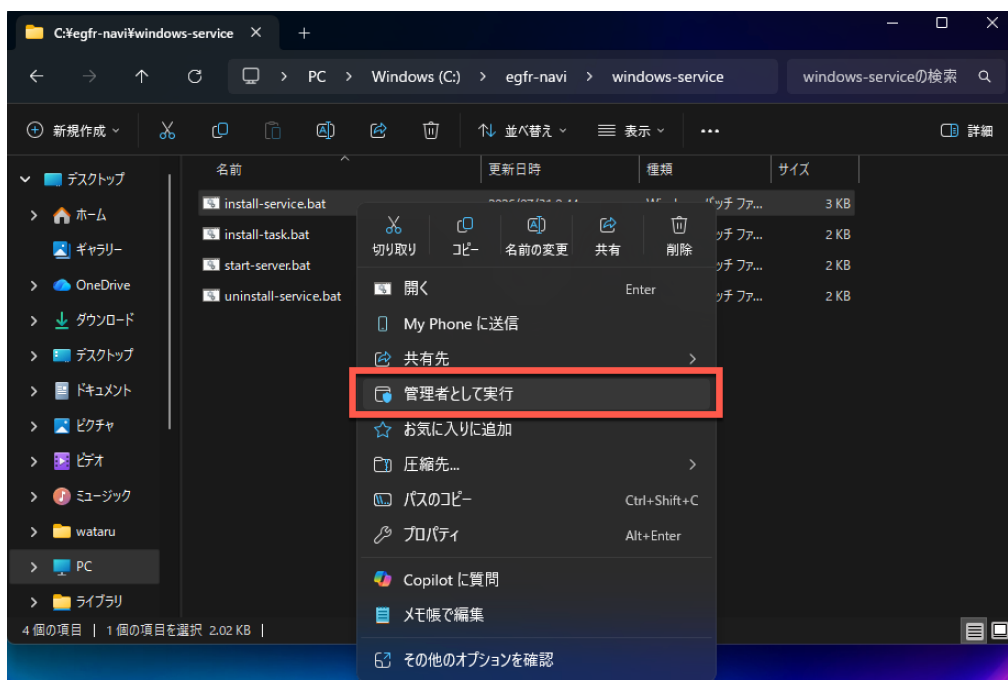
2. **install-service.bat** を**右クリック**します



install-service.bat を選ぶ

ダブルクリックでは登録できません。 Windowsへの登録には管理者権限が必要なため、必ず右クリックから「管理者として実行」を選んでください。

3. 「管理者として実行」をクリックします



必ず「管理者として実行」を選ぶ

4. 黒い画面に結果が表示されます。成功の文字が出れば完了です。最後の行の案内どおり、何かキーを押すと画面が閉じます

```
C:\WINDOWS\System32\cmd.exe
nssm.exe not found - falling back to Windows Task Scheduler...
(To use NSSM, put nssm.exe in this folder and run again.)

Registering scheduled task "eGFR NAVI Server" (run at startup as SYSTEM)...
成功: スケジュール タスク "eGFR NAVI Server" は正しく作成されました。
Starting the server now...
成功: スケジュール タスク "eGFR NAVI Server" の実行が試行されました。

Done. The server will start automatically at PC boot.
Check on this PC: http://localhost:3000
From other PCs: http://(this-server-IP):3000
Note: allow inbound TCP port 3000 in Windows Firewall.
To remove, run 'uninstall-service.bat' as administrator.
続行するには何かキーを押してください . . .
```

登録に成功したときの表示

1行目の「nssm.exe not found」は異常ではありません。NSSM という補助ソフトが無い場合、Windows標準のタスクスケジューラに自動的に切り替えて登録します。その下に「成功: スケジュール タスク "eGFR NAVI Server" は正しく作成されました。」と出ていれば、正常に登録できています。

この画面には、続けて次の案内も表示されます。

- PC起動時にサーバーが自動的に立ち上がること
- このPCでの確認先: <http://localhost:3000>

- 他のPCからの接続先: `http://(このサーバーのIP):3000`
- 他のPCから使う場合は、Windowsファイアウォールで受信のTCP 3000番を許可すること
- 登録を取り消すときは、同じフォルダの **uninstall-service.bat** を同様に「管理者として実行」すること

5. 動作確認と初回ログイン

サーバーPCのブラウザで動作を確認します。

1. ブラウザのアドレス欄に **http://localhost:3000** と入力します
2. ログイン画面が表示されれば、サーバーは正常に動いています
3. パスワード欄に **admin** と入力し、「**ログイン**」をクリックします



初回のログイン画面（初期パスワードの案内が表示されます）

黄色の案内は「まだ初期パスワードのまま」という警告です。次の6章でパスワードを設定すると表示されなくなります。

ログインするとトップ画面が表示されます。



トップ画面（バージョン番号の右にアクセス先が表示されます）

他のPCからの接続先は、この画面で確認できます。バージョン番号の右に「（アクセス先 http://192.168.193.187:3000）」のように、このサーバーの実際のアドレスが表示されます。利用者にはこのアドレスを伝えてください。

6. パスワードの設定

初期パスワードのままでは誰でも管理者として入れてしまいます。導入したら**すぐに**、正式なパスワードを設定してください。

1. トップ画面の「環境設定」を開きます

環境設定 [← トップへ](#)

パスワード設定 (管理者 / 利用者)

院内ブラウザ版のログインに使うパスワードです。管理者は全機能、利用者(閲覧者)はデータ閲覧のみ利用できます。変更は次回ログインから有効です。

管理者パスワード

新しい管理者パスワード (4文字以上)

確認のため再入力

[管理者パスワードを保存](#)

利用者(閲覧者)パスワード (未設定)

新しい利用者パスワード (4文字以上)

確認のため再入力

[利用者パスワードを保存](#) [解除](#)

「解除」すると利用者ログインを無効化できます (管理者のみで運用)。

パスワード初期化

管理者交代やパスワード失念時に使います。保存済みの管理者・利用者パスワードを消去し、全員を強制ログアウトします。以後は初期管理者/パスワード `admin` のみでログインでき、初回セットアップからやり直します。

[パスワードを初期化する](#)

環境設定の先頭にある「パスワード設定」

パスワードは**2種類**あります。用途に応じて使い分けてください。

種類	利用できる機能
管理者パスワード	すべての機能 (データの取り込み・初期化・環境設定を含む)
利用者パスワード	データの閲覧・グラフ表示・データベース解析のみ

2. 管理者パスワードを2回入力し、「管理者パスワードを保存」をクリックします

パスワード設定 (管理者 / 利用者)

院内ブラウザ版のログインに使うパスワードです。管理者は全機能、利用者(閲覧者)はデータ閲覧のみ利用できます。変更は次回ログインから有効です。

管理者パスワード

.....

.....

[管理者パスワードを保存](#)

管理者パスワードの設定 (確認のため2回入力)

3. 続けて**利用者パスワード**を2回入力し、「**利用者パスワードを保存**」をクリックします

利用者パスワードの設定

4. それぞれ「**パスワードを変更しました。**」と表示されれば完了です

両方の設定が完了した状態

4文字以上で設定できます。変更は**次回ログイン**から有効です。利用者パスワードが不要な場合は、「解除」で無効にでき、管理者のみの運用にできます。

パスワードは復元できない形（ハッシュ）で保存されます。忘れた場合に「元のパスワードを確認する」ことはできません。管理者でログインできる方がいれば「環境設定 → パスワードを初期化する」で初期状態に戻せます。誰もログインできなくなった場合は、C:\egfr-navi\RECOVERY.txtに復旧手順が書いてありますので、メモ帳で開いてご確認ください。

ここまでで導入は完了です。サーバーPC自身では、すでに eGFR NAVI を使える状態になっています。続いて、院内の他のPCから使えるようにする設定を7章で説明します。

7. 他のPCから使えるようにする

院内の他のPCからは、ブラウザで**サーバーPCのアドレス**を開くだけで利用できます。各PCへのインストールは必要ありません。

接続先のアドレスを確認する

サーバーPCで eGFR NAVI にログインし、トップ画面のバージョン番号の右をご覧ください。「**(アクセス先 http://192.168.193.187:3000)**」のように表示されています。これが他のPCから入力するアドレスです。

コマンドで確認することもできます。サーバーPCで「スタート」→「cmd」と入力して**コマンドプロンプト**を開き、**ipconfig** と入力すると、IPv4アドレスが表示されます。

ファイアウォールで通信を許可する

Windowsの標準設定では、外部からの接続が遮断されています。他のPCから利用するには、サーバーPCで**受信のTCP 3000番**を許可してください。

1. 「スタート」→「**Windows Defender ファイアウォール**」を開きます
2. 左側の「**詳細設定**」をクリックします
3. 左側の「**受信の規則**」を選び、右側の「**新しい規則**」をクリックします
4. 「**ポート**」→「**TCP**」→特定のローカルポートに **3000** と入力します
5. 「**接続を許可する**」を選び、名前を「eGFR NAVI」などとして完了します

利用者に伝えること

- ・接続先のアドレス（例：**http://192.168.193.187:3000**）
- ・**利用者パスワード**（管理者パスワードは配らないでください）
- ・操作方法は別冊の「**eGFR NAVI 操作説明書**」にあること

管理者パスワードは、PCの管理担当者だけが持ってください。利用者パスワードではデータの閲覧・グラフ表示・データベース解析ができ、データの取り込みや初期化、環境設定はできません。日常の利用にはこれで十分です。

対応ブラウザ

利用者のPCで使うブラウザには条件があります。

ブラウザ	可否
Microsoft Edge	○（Windows 10 標準の旧Edgeでも使えます）
Google Chrome / Firefox / Safari	○
Internet Explorer	× 対応していません

Internet Explorer では動作しません。同じPCに Microsoft Edge があれば、そちらで同じアドレスを開いてください。Internet Explorer で開いた場合は、画面にその案内が表示されます。

古いブラウザをお使いの場合の注意。Windows 10 標準の旧Edge (Edge 44 / EdgeHTML 18) でも操作できますが、データを取り込んだときに他のPCの画面へ反映されるまで、**最大30秒かかります** (新しいブラウザでは即時です)。画面を手動で更新すれば、すぐに最新の状態になります。

アドレスの代わりにコンピューター名でも接続できることがあります。院内プロキシの影響でIPアドレスでは開けない場合、**http:// (サーバーPCの名前) :3000** を試してください。詳しくは9章をご覧ください。

8. 日常の運用（停止・更新・バックアップ）

起動と停止

常駐化しているため、PCの電源を入れれば自動的に起動します。普段は何も操作する必要はありません。

やりたいこと	操作
いま動いているか確認	サーバーPCのブラウザで <code>http://localhost:3000</code> を開く
再起動したい	サーバーPCを再起動する（最も確実です）
一時的に止めたい	タスク マネージャー → 「詳細」 タブ → electron.exe を終了
自動起動をやめたい	windows-service の uninstall-service.bat を「管理者として実行」

登録されている名前は「**eGFR NAVI Server**」です。Windowsのタスク スケジューラを開くと、この名前で登録されているのが確認できます（NSSMを使った場合は「サービス」に **eGFR-NAVI** として登録されます）。

データの保存場所とバックアップ

患者データは、次の1つのファイルにまとまっています。

C:\egfr-navi\data\egfr.db

このファイルを定期的にコピーしておけば、それがバックアップになります。コピー先は院内の規程に従ってください。

- ・同じ場所の **backups** フォルダには、「初期化」を実行したときの自動バックアップが残ります
- ・バックアップからの復旧は、アプリの「データベース管理」画面から行えます
- ・検査データの取り込みは何度行っても重複しません（同じカルテNo・同じ日付は上書き）

data フォルダは消さないでください。ここに患者データの実体があります。更新やフォルダの移動を行うときは、必ず data フォルダを別の場所に控えてから作業してください。

新しい版へ更新する

新しいZIPファイルを受け取ったときの手順です。**データは引き継がれます。**

1. **uninstall-service.bat** を「管理者として実行」して、自動起動をいったん解除します
2. C:\egfr-navi\data フォルダを、デスクトップなど別の場所にコピーして控えます
3. C:\egfr-navi フォルダを削除します（または名前を egfr-navi-old などに変えます）
4. 新しいZIPを、3章と同じ手順で展開します
5. 控えておいた data フォルダを、新しい C:\egfr-navi の中に戻します（上書き）
6. 4章と同じ手順で **install-service.bat** を「管理者として実行」します
7. `http://localhost:3000` を開き、データが残っていることを確認します

パスワードもデータと一緒に引き継がれます。設定済みのパスワードは data フォルダの中に保存されているため、更新後に再設定する必要はありません。

完全にやめる（アンインストール）

1. **uninstall-service.bat** を「管理者として実行」します
2. 必要であれば data フォルダを控えます（患者データはここにありますが）
3. C:\egfr-navi フォルダを削除します

レジストリなどに設定は書き込まれていないため、これだけで完全に削除されます。

9. 困ったときは

他のPCからつながらない

まずサーバーPC自身で **http://localhost:3000** が開けるか確認してください。開ける場合、サーバーは正常です。原因はネットワーク側にあります。

確認すること	対処
ファイアウォール	受信のTCP 3000番を許可します（7章）
同じネットワークか	サーバーPCと同じ院内LAN・同じ無線に接続しているか確認します
アドレスが変わった	トップ画面で現在のアクセス先を確認します（下記参照）
プロキシ	拒否画面が出る場合は次項をご覧ください

「アクセスを拒否されました」と表示される

次のような画面は、eGFR NAVI ではなく**院内のプロキシ（Squid など）**が接続を拒んでいます。ブラウザが院内サーバーへ直接ではなく、プロキシ経由で接続しようとするために起こります。

Access control configuration prevents your request from being allowed at this time.
Internal Error: Missing Template ERR_ACCESS_DENIED

簡単な順に3つの対処があります。

1. **コンピューター名で開く**：http://（サーバーPCの名前）:3000 の形で試します。ドットを含まない短い名前は、プロキシを自動的に迂回することがあります
2. **プロキシの例外に追加する**：Edge / Chrome は「インターネット オプション → 接続 → LAN の設定 → 詳細設定 → 例外」に、サーバーのIPアドレスを追加します。**Firefox は別途**「about:preferences → ネットワーク設定 → プロキシなし」に追加が必要です
3. **情報部門に依頼する**：院内セグメントをプロキシ経由にしない（DIRECT）よう設定してもらいます

「Firefoxでは開けるがEdgeでは拒否される」場合は、PAC（自動構成スクリプト）が設定されています。
PACが有効なとき、上の2番の「例外」リストは**無視されます**。Firefoxは独自のプロキシ設定を持つため迂回できますが、Edgeはシステムの設定に従うためです。この場合は3番の依頼が必要です。

サーバーのIPアドレスが変わってしまう

多くの院内LANでは、IPアドレスは自動で割り当てられる（DHCP）ため、PCの再起動などで変わることがあります。利用者に伝えたアドレスが使えなくなる原因です。

- ・現在のアドレスは、サーバーPCのトップ画面（バージョン番号の右）でいつでも確認できます
- ・恒久的な対策として、情報部門に**固定IPアドレスの割り当て**（またはDHCP予約）を依頼してください

実例：あるテスト機で、IPアドレスが **169.254.x.x**、サブネットマスクが **255.255.0.0** という見慣れない値になっていたことがあります。これはDHCPからアドレスを受け取れなかったときにWindowsが自動で付ける値で、原因は**院内のDHCPアドレスの枯渇**でした。この状態では他のPCからは接続できません。

パスワードを忘れてログインできない

管理者でログインできる方がいれば、「**環境設定 → パスワードを初期化する**」で初期状態に戻せます。誰もログインできない場合は、次の手順で復旧します。

1. C:\egfr-navi\RECOVERY.txt をメモ帳で開きます
2. 最終行の **FORCE_PASSWORD_RESET=NO** を **YES** に書き換えて保存します
3. サーバーPCを再起動します
4. ログイン画面に初期化した旨が表示されるので、**admin** でログインします
5. 6章の手順で、新しいパスワードを設定し直します

この操作で消えるのはパスワードだけです。患者データは失われません。また、YESは起動時に自動的にNOへ戻るため、書き戻す必要はありません。

画面の表示が古いまま変わらない

ブラウザが古い画面を記憶していることがあります。**Ctrl** キーを押しながら **Shift + R** を押して、読み込み直してください。

それでも解決しないとき

サーバーPCで **windows-service** フォルダの **start-server.bat** をダブルクリックすると、黒い画面にサーバーの動作記録が表示されます。この画面の内容が、原因を調べるための手がかりになります。

より詳しい技術的な情報は、C:\egfr-navi\SERVER.md（メモ帳で開けます）に記載しています。Mac・Linuxをサーバーにする場合の手順、ポート番号の変更、デスクトップ版からのデータ引き継ぎなども、こちらをご覧ください。